

科目名	老年看護学概論		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (15 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 老年期にある対象の特徴及び老年看護の役割と機能の理解を深める。</p> <p>目標: 1 老年期にある対象の特徴と加齢が健康に及ぼす影響を理解できる。 2 老年看護の役割と機能や、老年看護に用いられる理論・概念を理解できる。 3 高齢社会における保健・医療・福祉の動向と老年看護の役割を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 老年看護の対象	2	1 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化 2 老年期の特徴 (1) 老年期の発達課題 ア エリクソン イ バック ウ ハヴィガースト 3 老年期の健康問題の特徴 (1) 老年症候群という概念 (2) 老年症候群とは ア フレイル イ サルコペニア ウ ロコモティブシンドローム		講義
2 老年看護の役割と機能	3	1 老年看護の役割と機能 (1) 高齢者の意思決定 : エンパワメント (2) 生活機能の評価 ア 国際生活機能分類(ICF) イ 高齢者総合機能評価(CGA) ウ 手段的日常生活動作(IADL) 2 老年看護に用いられる理論・概念 (1) サクセスフルエイジング (2) ライフレビュー (3) コンフォート理論 (4) ストレングス		講義
3 高齢社会の保健・医療・福祉	4	1 わが国の高齢化の特徴 (1) 少子化と高齢化 (2) 長寿の獲得 (3) 老年人口の将来推計 (4) 高齢者のいる世帯 (5) 高齢者の健康状態 (6) 高齢者の暮らし 2 高齢者保健・医療・福祉の動向 (1) 高齢者とソーシャルサポート (2) 高齢者の健康を支える制度 ア ゴールドプラン 21 イ 介護保険制度 ウ 高齢者の医療の確保に関する法律		講義

4 高齢社会における権利擁護	5	1 高齢社会における権利擁護 (1) 高齢者に対する烙印と差別 ア スティグマ イ エイジズム ウ アドボカシー (2) 高齢者虐待 ア 虐待の分類と実態 イ 高齢者虐待防止法 (3) 安全の確保と身体拘束 ア 身体拘束の定義と現状 イ 身体拘束の例外3原則 (4) 権利擁護のための制度 ア 成年後見制度 イ 日常生活自立支援事業	講義
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年 病態・疾患論 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・本科目は、准看護師課程で学習している「老人看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。(特に老年看護の役割や老年期の特徴等は、授業では詳しく説明しないので、復習や自己学習のうえ授業に臨むこと。) ・積極的な学習姿勢と、主体的な授業への参加姿勢を望む。 ・超高齢化社会を迎えた日本の未来を考える機会となることを望む。		

科目名	老年看護学方法論Ⅰ		履修年次	1年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1単位(15時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有・無	
<p>目的: 高齢者の健康の保持・増進及び介護予防のための看護や、加齢に伴う健康障害と看護を理解する。</p> <p>目標: 1 高齢者の加齢に伴う身体的変化と、それに伴う日常生活上のリスクを理解できる。 2 高齢者の生活機能を維持・向上するための援助方法を理解できる。</p>				
授業計画				
単元	時間	内容	方法	
1 高齢者の日常生活援助技術	14 (2)	1 老年症候群 (1) 老年症候群とは (2) 老年症候群の分類 (3) フレイルとサルコペニアの予防と援助 2 高齢者と転倒 (1) 転倒予防のアセスメントと看護	講義	
	(2)	3 高齢者と皮膚障害 (1) 高齢者の皮膚の特徴(加齢による変化) (2) 掻痒のアセスメントと援助 (3) 褥瘡・熱傷・スキン・ケアの予防と援助		
	(2)	4 高齢者と脱水 (1) 脱水のアセスメントと援助 (2) 熱中症の予防と援助		
	(2)	5 高齢者のやせ(るいそう)と栄養 (1) 食生活に注目する意義 (2) 高齢者に特徴的な変化	講義	
	(2)	(3) 摂食・嚥下機能のアセスメント (4) 食事に対する援助	演習	
	(2)	6 高齢者とコミュニケーション (1) 高齢者のコミュニケーションの特徴とかかわり方 (2) 高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害 (3) コミュニケーションのアセスメントと援助	講義	
	(2)	7 高齢者と感覚機能低下 (1) 視力低下(老人性白内障)の特徴と日常生活への影響 (2) 聴力低下(老人性難聴)の特徴と日常生活への影響 (3) 感覚機能低下のある高齢者へのかかわり方		
試験	1			
評価方法	筆記試験			
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)			

参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。
履修上の 留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、准看護師課程で学習している「老人看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。 ・本科目は、老年看護学実習に必須の知識・技術のため、積極的な学習姿勢を望む。 ・また、解剖生理学や疾病治療論Ⅱ（運動器）・Ⅲ（感覚器）及び看護共通基本技術Ⅱ（コミュニケーション）、日常生活援助技術Ⅰ（食事）の基礎知識が必須の科目である。当該科目の既修学習内容を復習のうえ、本授業に臨むこと。 ・解剖生理学や疾病治療論Ⅱ・Ⅲ、看護共通基本技術Ⅱ・日常生活援助技術Ⅰのテキスト及び授業資料は、持参のうえ、授業に臨むことを推奨する。 ・複数の講師が担当するので、出欠席は自己管理のうえ、体調管理に努め、欠席しないように授業に臨むこと。 ・さらに演習には、テキスト等を予習のうえ、積極的・主体的な学習姿勢と参加姿勢を望む。

科目名	老年看護学方法論Ⅱ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (30 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 老年期に起こりやすい健康障害と、その健康障害の治療に応じた看護の理解を深める。</p> <p>目標: 1 健康障害のある高齢者の特徴を理解できる。 2 高齢者に特有な健康障害に伴う問題及び家族を含めた看護を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容	方 法	
1 老年期に起こりやすい健康障害の看護	29 (6)	1 呼吸機能に障害のある高齢者の看護 (1) 加齢による疾病の特徴と要因 (2) 呼吸機能に障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護 【慢性閉塞性肺疾患】 ア 酸素療法 イ 呼吸リハビリテーション ウ 生活指導 【肺炎】 ア 酸素療法や人工呼吸器装着時の看護 イ 生活指導	講義	
	(4)	2 循環機能に障害のある高齢者の看護 (1) 加齢による疾病の特徴と要因 (2) 循環機能に障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護 【心不全】 ア 薬物療法 イ 合併症・二次的障害の予防 ウ 生活指導	講義	
	(4)	3 脳血管・神経機能に障害のある高齢者の看護 (1) 加齢による疾病の特徴と要因 (2) 脳血管・神経機能障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護 【脳梗塞】【脳出血】 ア 急性期の看護:合併症予防と早期離床 イ 回復期の看護:ADL の向上と在宅・社会復帰支援 ウ 維持期の看護 エ 家族への支援 【認知症】 ア 認知症の概念 イ 認知症の症状 ウ 認知機能の評価 エ 認知症予防と看護 (ア) 予防・治療的アプローチ (イ) 療養環境の調整 (ウ) コミュニケーション 【パーキンソン症候群】 ア 症状に伴うリスク管理:転倒・外傷の予防	講義	
	(6)			

		<p>【うつ・せん妄】</p> <p>ア 高齢者のうつ・せん妄の臨床的特徴</p> <p>イ うつ・せん妄のリスク要因</p> <p>ウ 看護の実際</p>	
	(4)	<p>4 排尿機能に障害のある高齢者の看護</p> <p>(1) 加齢による疾病の特徴と要因</p> <p>(2) 排尿機能障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護</p> <p>【前立腺肥大症】【前立腺がん】</p> <p>ア 排尿障害のアセスメント</p> <p>イ 手術療法に伴う看護</p> <p>ウ 日常生活上のケア</p>	講義
	(5)	<p>5 運動機能に障害のある高齢者の看護</p> <p>(1) 加齢による疾病の特徴と要因</p> <p>(2) 運動機能障害を起こす疾患の症状・治療に伴う看護</p> <p>【大腿骨頸部骨折】</p> <p>ア 手術療法と術後合併症予防</p> <p>イ 腓骨神経麻痺と脱臼予防</p> <p>ウ 生活指導</p> <p>【変形性関節症】</p> <p>ア 人工関節置換術と看護</p> <p>イ 生活指導</p>	講義
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	<p>・本科目は、准看護師課程で学習している「老人看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。</p> <p>・本科目は、老年看護学実習に必須の知識・技術のため、積極的な学習姿勢を望む。</p> <p>・解剖生理学や疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの基礎知識が必須の科目である。当該科目の既修学習内容を復習のうえ、本授業に臨むこと。</p> <p>・また、解剖生理学や疾病治療論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのテキスト及び授業資料は、持参のうえ、授業に臨むことを推奨する。</p> <p>・複数の講師が担当するので、出欠席は自己管理のうえ、体調管理に努め、欠席しないように授業に臨むこと。</p> <p>・授業の後は、復習しておくこと。</p>		